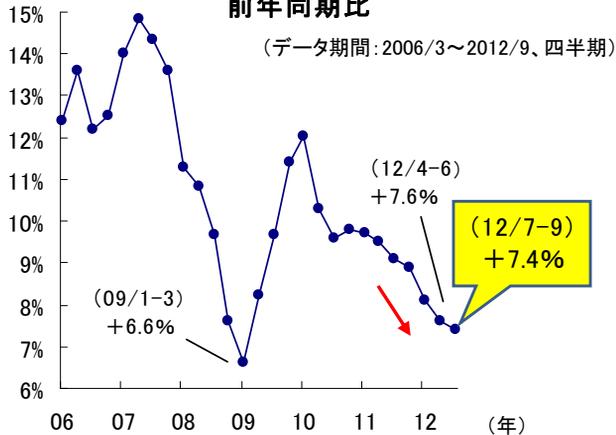


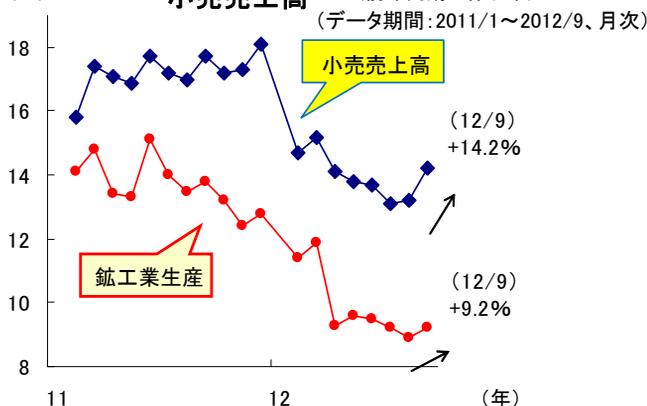
## 最近の中国の景気動向と相場見通しについて

- ◆10月18日に発表された中国の7-9月期実質GDPは前年同期比+7.4%と4-6月期の+7.6%から一段と鈍化、リーマンショック直後2009年1-3月の+6.6%以来の低い成長率となりました(図表1)。一方、同時に発表された9月の景気指標は改善傾向となったことから、当日の中国株は上昇、日本株も大幅上昇となりました。
- ◆9月の小売売上高は前年同月比+14.2%と8月の+13.2%から2ヶ月連続で加速、鉱工業生産も+9.2%増と8月の+8.9%から4カ月ぶり加速となりました(図表2)。輸出入や固定資産投資の伸びも高まっており、経済全般が9月に改善に転じた可能性が示唆されています。このペースで回復が続けば、10-12月期実質GDPが8四半期ぶり加速に転じることも期待できそうです。
- ◆9月の経済全体のファイナンス規模を示す「社会融資総量」※は1兆6500億元と昨年を大きく上回るペースへ拡大しています(図表3)。今回の景気停滞が長期化した要因としては、「①食糧高・インフレ懸念による金融緩和の遅れ」「②新指導部への移行前で政策が出にくい政治情勢」「③欧州景気後退をうけた外需低迷」が考えられますが、①の金融面については、すでに相当に緩和的な状況に転じたと見られます。  
※「社会融資総量」:銀行融資・社債・株式を含む経済全体のファイナンス規模
- ◆中国の株式市場は、景気減速をうけて低迷が続いていましたが、9月以降はやや反発に転じつつあります(図表4)。11月には党指導部交代が予定され、②の政治要因も好転すると見られます。年末にかけては、景気回復への期待感から、中国株の上昇基調の継続が期待されます。

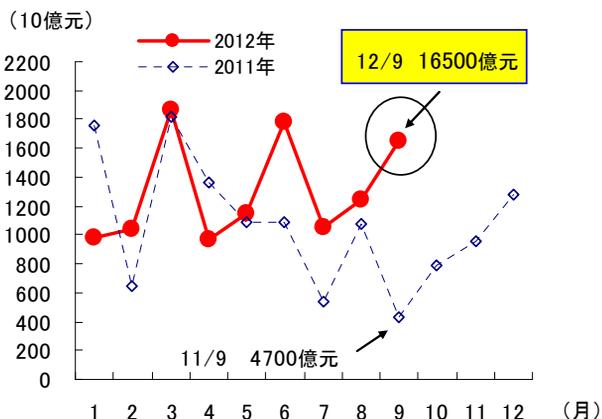
(図表1) 中国 実質GDP伸び率  
前年同期比



(図表2) 鉱工業生産と  
小売売上高 (前年同期比伸び率)



(図表3) 社会融資総量の動き



(図表4) 中国株の動き (データ期間: 2011/1/4~2012/10/19、日次)



出所: 図表①~④はいずれも中国国家统计局、中国人民銀行、ブルバークのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。〈審査確認番号H24-TB57〉